

みみだより No.49

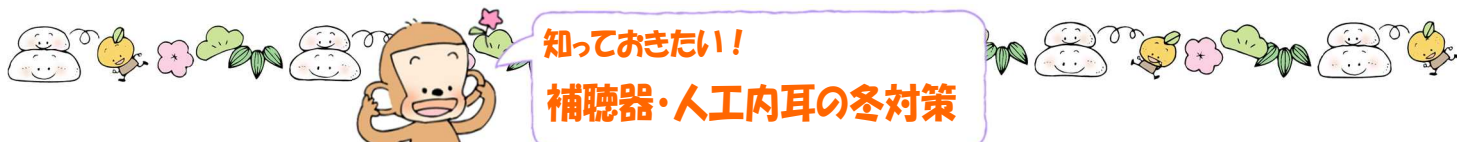
鳥取聾学校ひまわり分校

聴能担当

R6.1.11

文責：奥田

2024年（令和6年）が始まって10日が経ちました。冬本番になり、気温が低い日が続いていますが、寒さに負けず、しっかりと冬対策をして冬を乗り切りましょう。さて、冬対策が必要なのは我々だけではなくありません。補聴器・人工内耳も冬対策が必要です。今回は、冬に気を付けたい補聴器等の取り扱いについて取り上げてみたいと思います。



知っておきたい！

補聴器・人工内耳の冬対策

夏は汗をかきやすく、補聴器や人工内耳の管理に気を付けている人が多いですが、実は、冬の対策も夏と同じくらい大切です。親子で〇×クイズに取り組んでみてください！いくつ正解できますか？

【問題】

- 1、夏は汗をかくので、使用後は乾燥剤入りのケースに入れることが大切だが、冬は汗をかかないので、乾燥剤入りのケースは使わなくてもよい。
- 2、運動をして汗をかいたので、補聴器や人工内耳を乾燥剤入りのケースで乾燥させようと思ったが、ストーブのほうが乾きやすいので、ストーブを使って乾燥させた。
- 3、補聴器の電池は、寒さに弱いので、冬はできるだけ部屋を暖めた方がよい。

【解説】 正解は一番下にあります

1	冬は汗こそかきにくいですが、寒暖差による結露に要注意です。たくさん外で遊んで、暖かい室内に入ると、急激な温度差によって、補聴器や人工内耳の内部が結露することがあります。室温になじませてから、補聴器等のスイッチを入れるようにしましょう。また、チューブの内部が結露することもあります。水滴を取り除くためには、フックからチューブを取り外して軽く振ったり、ティッシュペーパーでつくったこよりなどで吸い取ったりしましょう。	
2	乾燥には、ストーブを使った方が早くて効率的と思いがちですが、補聴器等は熱に弱い機器です。よって、ストーブのそばには置かない方がよいと言われています。急いでいても、乾燥剤入りのケースや、専用の乾燥器で乾かしましょう。	
3	補聴器には空気電池といわれる電池が使用されています。空気電池に最適な気温は 20℃とされており、5℃以下では寿命が縮むと言われているので、寒さに弱いのは確かです。しかし、部屋を暖めようとして空気が乾燥してしまうと、これもまた、電池の寿命を縮める原因になります。適切な湿度を保つために、定期的に換気をしたり、加湿をしたりしましょう。	

みなさんは、何問正解できましたか？今回は、補聴器・人工内耳の冬の取り扱いについて取り上げました。冬に限らず、補聴器・人工内耳の取り扱いの基本は、**どちらも使用後は、電池を外して乾燥ケースに入れる！**です。寒さから補聴器等を守って、最適なきこえを保ちましょう！

×：E ×：乙 ×：レ【調子】

ワンポイント手話



「おやこ手話じてん」より